

## 6 研修修了者からのメッセージ

### 宇治田原優駿ステーブル 〔取材記事〕

宇治田原優駿ステーブルは、京都の市内から離れた府の東南部に位置する京都府綴喜郡宇治田原町の山あい<sup>うづきぐん</sup>に立地し、夏は涼しく冬は比較的温暖なところにあります。周囲は木々の緑に囲まれ、風通りがよく、清澄な空気のもとでサラブレッドの調教および育成を行っている施設です。このステーブルは平成14年に設立され、広大な敷地内には、現在、U字形をした2本の坂路コース(長さ870m、幅員8mおよび長さ800m、幅員6m)、楕円形のウッドチップコース(620m)並びにダートコース(600m)があります。栗東トレーニングセンターおよび京都競馬場にも比較的近く、外厩的な役割を担っており、天井が非常に高く換気がきわめて良い馬房には最大200頭の競走馬が収容可能ということです。調教技術スタッフ約50名のもとで、個々の競走馬の馬体の状態を見きわめながら、適性やコンディション、出走ローテーションに合わせたトレーニングを行っています。順調にトレーニングを積み、無事にレースに出走することが最も大切であり、競馬関係者やファンに感銘を与えられるように強い馬づくりを目指して前進している姿勢が肌感じられました。

取材当日はあいにく小雨模様で、優駿ステーブルには午後に訪問したため、調教風景は見ることができませんでしたが、厩舎の馬房の近くで作業している若いスタッフの動きは軽く、有名馬の輩出が期待されます。

#### 久保春太 第23期修了者(平成18年修了)

久保さんは京都の出身で、幼少の頃はお父さんに頻りに京都競馬場につれていってもらったそうです。そのようなことが馬との繋がり<sup>つながり</sup>の始まりです。平成17年に入講したBTCの育成調教技術者養成研修を翌春に修了した後、アイルランドでの競走馬厩舎で3ヶ月間の研修に参加しました。そこでは初めて触れる現役競走馬の力強い動きに、これまで騎乗してきた教育用馬や若い育成馬とは違う感触を得たようです。帰国後は、少し北海道の牧場を経て宇治山田優駿ステーブルに勤め始めました。就労してまだ2年余りですが、毎日4鞍程度騎乗する中で、中央競馬6戦2勝・地方競馬2戦2勝(地方重賞勝馬)のホワイトメロディー、中央競馬9戦5勝マヤノツルギおよび中央競馬27戦7勝のマヤノライジンを担当したそうです。

勤め始めてこれまでに一番うれしかったことについて伺いましたが、今のところ特に無いということでした。辛いこととしては担当馬の故障や自分の思い通りに調教できないことだそうですが、異なる飼養環境あるいは性別、年齢、様々な性質の馬では当然ありうることと思われ<sup>おもわれ</sup>ます。

独身で多趣味ですが、休日には皆さんでボーリングに出かけることもあるそうです。同期生の皆さんの大部分は北海道の牧場に就労し、本州では他に鳥取県や福島県に若干名おり、時々連絡を取り合っているとのこと。同期

生や続く後輩に対して、「とにかくこの世界で、目標をもって生きて欲しい」と、おっしゃっていました。



久保 春太さん



調教コース

### 吉元晃彦 第25期修了者(平成20年修了)

吉元さんは大阪生まれで、お兄さんが栗東の厩舎関係に務めており、本人も高校時代から姫路で乗馬を始めました。大学時代に再度乗馬をしていましたが、中退しBTCの研修に入講し、修了後すぐに優駿ステーブルに勤め始めました。まだ、就労して半年あまりですが、現在、毎日2～4鞍騎乗し、外厩と休養牧場など多数の競走馬の世話が出来るため、楽しい日々を送っているとのこと。また、宇治田原からは京都や阪神競馬場がそれほど遠くな

いため、レース観戦に行く機会があり、休日には地元近くの友人と食事や歓談したり、ドライブに出かけたりして過ごし、充実した生活を送っておられる様子でした。現在、勤めている優駿ステーブルはとても楽しい職場なので、後輩にも就職を推奨しますといわれました。

今回、2名のBTC研修修了者にお話をうかがいましたが、若い育成調教スタッフの中でも楽しい充実した毎日を過ごしていることが、お話しを伺う中で強く感じられました。これまでに学んできた育成調教技術を背景に、新たな経験を糧として、さらに飛躍されることを願ってやみません。



吉元 晃彦さん

